阪神・淡路大震災

震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）

平成２４年

兵庫県･神戸市

目　次

○　震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）について・・・・・・1ﾍﾟｰｼﾞ

○　震災障害者インタビュー内容（14 名）
①　震災障害者－1（男性、83 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7ﾍﾟｰｼﾞ
②　震災障害者－2（男性、63 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15ﾍﾟｰｼﾞ
③　震災障害者－3（女性、61 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23ﾍﾟｰｼﾞ
④　震災障害者－4（女性、76 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37ﾍﾟｰｼﾞ
⑤　震災障害者－5（男性、79 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47ﾍﾟｰｼﾞ
⑥　震災障害者－6（男性、75 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59ﾍﾟｰｼﾞ
⑦　震災障害者－7（男性、66 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65ﾍﾟｰｼﾞ
⑧　震災障害者－8（女性、85 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81ﾍﾟｰｼﾞ
⑨　震災障害者－9（男性、70 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89ﾍﾟｰｼﾞ
⑩　震災障害者－10（女性、76 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101ﾍﾟｰｼﾞ
⑪　震災障害者－11（男性、66 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107ﾍﾟｰｼﾞ
⑫　震災障害者－12（女性、77 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127ﾍﾟｰｼﾞ
⑬　震災障害者－13（女性、79 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133ﾍﾟｰｼﾞ
⑭　震災障害者－14（男性、63 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143ﾍﾟｰｼﾞ
※　年齢は調査時点現在(平成 23 年 2 月,3 月)のもの

○　震災遺児（保護者）インタビュー内容（12 世帯・17 名）
①　遺児本人－1（長男、31 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153ﾍﾟｰｼﾞ
②　遺児本人－2（長女、24 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159ﾍﾟｰｼﾞ
③　保護者－3（父親、63 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167ﾍﾟｰｼﾞ
④　保護者－4（叔父、60 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・181ﾍﾟｰｼﾞ
⑤　保護者－5（父親、58 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・189ﾍﾟｰｼﾞ
⑥　保護者－6（母親、50 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199ﾍﾟｰｼﾞ
⑦　保護者－7（父親、55 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・211ﾍﾟｰｼﾞ
⑧　保護者－8（父親、48 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223ﾍﾟｰｼﾞ
⑨　遺児本人－9（長男、16 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・235ﾍﾟｰｼﾞ
⑩　遺児本人－10（男性、孫、19 才）
　　保護者－10（祖母、66 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・241ﾍﾟｰｼﾞ
⑪　遺児本人－11（女性、孫、16 才）
　　保護者－11（祖母、62 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・253ﾍﾟｰｼﾞ
⑫　保護者－12（伯父、62 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・265ﾍﾟｰｼﾞ
⑬　保護者－13（母親、53 才）
　　遺児本人－13-1（長男、27 才）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281ﾍﾟｰｼﾞ
　　遺児本人－13-2（次男、24 才）
※１　①、②、⑨は遺児のみ、③～⑧、⑫は保護者のみにインタビューを実施
※２　年齢は調査時点現在(平成 23 年 2 月)のもの

震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接調査）について

Ⅰ　調査の経緯

阪神・淡路大震災に起因する障害者（震災障害者）、遺児（震災遺児）について、復興フォローアップ委員会から「震災障害者、震災遺児の実態把握や将来の災害に備えとなる教訓の抽出を図るべき」との提言があったことを踏まえ、平成22年度から兵庫県、神戸市合同で震災障害者と震災遺児の実態調査を行ってきた。平成22年12月のアンケート調査中間集計を経て、平成23年5月には分析を加えた震災障害者・震災遺児実態調査報告書（面接内容を除く）を作成し公表した。

このたび、整理作業を進めていた震災障害者、震災遺児に対する面接内容をとりまとめたので、追加して公表するものである。

Ⅱ　面接調査

震災障害者や震災遺児の方々の震災直後の状況や生活の変化など貴重な経験を記録にとりまとめて発信・継承し、今後の災害に備えた被害の軽減や生活再建などの災害対策に役立てる。

なお、今回の面接調査では公表の同意を得られた方々の人数が統計的な分析をするためには限定されているので、報告書としてはインタビュー内容そのもの（生の声）を公表し、それぞれの方々のご経験やご心情を広く共有するものとする。

1　震災障害者

①　調査方法

アンケート調査に回答された方のうち、面接調査に同意された震災障害者本人（希望者には付添人）に対してインタビューア、質問補助者が訪問先に出向き、下記の項目を中心に1名（1組）当たり概ね100分程度のインタビューを行った。

ア　地震直後や救出時の状況
イ　病院への搬送・治療やリハビリテーションの状況
ウ　震災前後の生活や気持ちの変化
エ　震災障害者に必要なこと　など

②　調査公表者数　14人

アンケート調査回答者(90 人)中、面接調査同意者(27 人)のうち公表に対する同意を得た14人分を取りまとめた。

③　調査期間　　平成23年2月から3月

④　震災障害者（公表の同意者）の属性

ア　障害等級〔単位：人〕

1級	1
2級	2
3級	5
4級	3
5級	3
6級	0
合計	14

イ　主たる障害の部位〔単位：人〕

上下肢	0
上肢	2
下肢	6
体幹	2
内部障害	0
視覚	0
聴覚	1
その他複数箇所	3
合計	14

ウ　性別〔単位：人〕

男	8
女	6
合計	14

エ　年齢構成　〔単位:人〕

	被災時	調査時
65歳以上	2	11
60～64歳	3	3
50～59歳	4	0
40～49歳	5	0
合計	14	14

オ　被災時の住所、現住所　〔単位：人〕

被災時の住所		
	神戸市東灘区	8
	神戸市灘区	0
	神戸市中央区	0
	神戸市兵庫区	1
	神戸市長田区	1
	神戸市北区	0
	神戸市須磨区	1
	神戸市垂水区	0
	神戸市西区	0
	西宮市	2
	芦屋市	1
	合計	14

⇨

現住所		
	神戸市東灘区	3
	神戸市灘区	1
	神戸市中央区	2
	神戸市兵庫区	0
	神戸市長田区	1
	神戸市北区	0
	神戸市須磨区	0
	神戸市垂水区	2
	神戸市西区	1
	西宮市	3
	芦屋市	1
	合計	14

カ　自宅の被害状況〔単位：戸〕

全壊	14
半壊	0
一部損壊	0
合計	14

⑤　面接調査における主な発言

今回の面接調査は、共通の質問項目を設定し、対象者の方に聴き取りを行った。面接では、地震直後の倒壊した家屋からの救出や、被災した病院での混乱状況、長引くリハビリなどの苦難やそれを如何に乗り越えてきたかなど、これまでの体験や思いを語っていただき、貴重な体験談として別添資料のとおり取りまとめた。

なお、主な発言は次のとおりである。

○　地震直後や救出時の状況

・　救出のための道具が無く、小さなジャッキも役に立たなかった。
・　埋もれている時、初め外部へ声が伝わらず、物を蹴って音を出して、やっと近所の方に救出された。
・　２階の押し入れに非常持ち出し袋を保管していたが何の役にも立たなかった。
・　机が支えになり空間ができたので命は助かった。

○　病院への搬送・治療やリハビリテーションの状況

・　震災時は病院も被災し混乱しているが、症状を正確に把握してくれる医師に巡り会うことが重要。
・　震災後しばらくしてから挫滅症候群と判明し緊急手術を行った。
・　親戚を頼って、県外の病院へ入院した。
・　リハビリを続けていたが１０年後に再手術をおこなった。３回の

転院を余儀なくされた。
- 震災から15年後に突然PTSDを発症した。
- 障害者手帳の取得は病院（医者）から指導されて初めて知った。

○ **震災前後の生活や気持ちの変化**
- マイナス思考になると心も体も潰してしまう。
- 震災後は、用心深くなり人に迷惑をかけないよう心がけている。
- ボランティアや趣味をしている時は、それが生きがいになり元気になった。

○ **震災障害者に必要なことなどの提案**
- 今回の調査で自分のような障害者がいることを知ってほしい。
- 日頃から継続した近所づきあいが重要である。
- 災害に備えた避難所確認や家具の固定が必要。
- 女性のためのトイレの整備、高層ビルのガラス破損防止が必要。

2　震災遺児

①　調査方法

アンケート調査に回答された方のうち、面接調査に同意された震災遺児本人又は保護者に対してインタビューア、質問補助者が下記の項目を中心に1名（1組）当たり概ね100分程度のインタビューを行った。

ア　震災時の家族の状況
イ　遺児の養育状況
ウ　修学状況や家族関係などの状況
エ　震災遺児に必要なこと　など

②　調査公表者数（12世帯の本人・保護者に対して面接）

ア　震災遺児　7人

アンケート調査回答者(74人)中、面接調査同意者(7人)のうち公表に対する同意を得た7人分を取りまとめた。

イ　保護者　10人

アンケート調査回答者(79人)中、面接調査同意者(12人)のうち公表に対する同意を得た10人分を取りまとめた。

③　調査期間　　平成23年2月から3月

④　震災遺児・保護者（公表同意者）に関する属性

ア　性別　　〔単位：人〕

	本人	保護者	合計
男	5	6	11
女	2	4	6
計	7	10	17

※　12世帯の本人・保護者計17名に面接

イ　自宅の被害状況　〔単位：人〕

	本人	保護者	合計
全壊	7	10	17
半壊	0	0	0
一部損壊	0	0	0
合計	7	10	17

※　保護者の場合養育している遺児の自宅の被害状況を記載。

ウ　年齢構成　〔単位：人〕

	被災時		調査時	
	本人	保護者	本人	保護者
65歳以上	0	0	0	1
60～64歳	0	0	0	4
50～59歳	0	1	0	4
40～49歳	0	5	0	1
30～39歳	0	4	1	0
20～29歳	0	0	3	0
10～19歳	2	0	3	0
10歳未満	5	0	0	0
計	7	10	7	10

エ　被災時の住所、現住所　〔単位：人〕

		本人	保護者	合計
被災時の住所	神戸市東灘区	1	2	3
	神戸市灘区	1	2	3
	神戸市中央区	0	0	0
	神戸市兵庫区	1	1	2
	神戸市長田区	0	0	0
	神戸市北区	0	0	0
	神戸市須磨区	0	0	0
	神戸市垂水区	0	0	0
	神戸市西区	0	0	0
	尼崎市	0	0	0
	西宮市	3	4	7
	芦屋市	1	1	2
	明石市	0	0	0
	豊岡市	0	0	0
	合計	7	10	17

⇨

		本人	保護者	合計
現住所	神戸市東灘区	2	2	4
	神戸市灘区	1	3	4
	神戸市中央区	0	0	0
	神戸市兵庫区	1	1	2
	神戸市長田区	0	0	0
	神戸市北区	0	0	0
	神戸市須磨区	0	0	0
	神戸市垂水区	0	0	0
	神戸市西区	0	0	0
	尼崎市	0	0	0
	西宮市	2	1	3
	芦屋市	1	1	2
	明石市	0	1	1
	豊岡市	0	1	1
	合計	7	10	17

オ　遺児と保護者の続柄　〔単位：世帯〕

父親	5
母親	3
祖父	0
祖母	2
叔父	2
合計	12

カ　亡くなった家族の人数と続柄　〔単位：世帯〕

1人	8
2人	2
3人	1
4人	1
合計	12

父親のみ	4
母親のみ	4
母親と兄弟	2
両親と兄弟	1
両親と兄弟と祖母	1
合計	12

⑤　面接調査における主な発言

今回の面接調査は、共通の質問項目を設定し、対象者の方に聴き取りを行った。面接では、震災時の家族の被災状況をはじめ、経済的な不安や周囲への気遣い、遺児養育の苦労などを如何に乗り越えてきたかなど、これまでの体験や思いを語っていただき、貴重な体験談として、別添資料のとおり取りまとめた。

なお、主な発言内容は次のとおりである。

○　遺児の進学・就学や家族関係などの状況

［遺児］

・　収入が少ないことが大きな負担となった。
・　男親がいないことで、周りから偏見をもたれた。
・　各種育英資金や奨学金には大変助けられた。

○　遺児の養育状況

［保護者］

・　二人の娘が難しい年頃で父親一人で苦労した。
・　初めはトラウマであると気がつかなかった。
・　遺児と実子の接し方に悩み、苦労した。
・　あしなが育英会など同じ境遇の集まりは励みになり良かった。
・　各種育英資金や奨学金には大変助けられた。

○　震災遺児に必要なことなどの提案

［遺児］

・　震災の経験を伝えることは残された者の役目である。
・　遺体の保存に使うドライアイス一つにしても役所が有事に備えて手助けする仕組みを作っておくべき。
・　親がおらず進学できない、不安を持っている子供に金銭面、精神面への支援が必要。
・　避難所での女性に対するプライバシーの確保が必要。

［保護者］

・　遺児や保護者が気楽に相談できる場があればいい。
・　各種申請手続きに時間がかかった。もう少し迅速にしてほしい。
・　震災時の交通規制、生活用水の確保が重要。

〔別添資料〕

1　震災障害者面接調査（14名）
　(1)　対象者プロフィール
　(2)　面接内容（項目ごとに整理したもの）

2　震災遺児面接調査（遺児7名、保護者10名）
　(1)　対象者プロフィール
　(2)　面接内容（項目ごとに整理したもの）